

# 帰国研修員便り

## 【帰国研修員の現地活動状況】



母国（コソボ）で第3回目の Work Shop を開催し研修成果を報告された帰国研修員の皆さん

- 1) コースリーダー：末田 元
- 2) 現地活動報告：Mr. DURAKU Vehbi  
(コソボ帰国研修員)


2016年5月25日

(公財) 北九州国際技術協力協会 研修部

**JICA/KITA 技術研修コース終了後、コソボから参加した帰国研修員が母国で開催したワークショップの状況について便りが届きました（第Ⅲ報）**

今回、ご紹介する帰国研修員便りは、JICA国別研修コース：「コソボ下水道対策能力向上」に参加した研修員が、母国で開催したワークショップの第Ⅲ報です。

**1. 1. 今回レポートされた帰国研修員の紹介**

名前 (通称)	写真	氏名	国名
ヴェビさん		Mr. DURAKU Vehbi	コソボ



**【下水道対策能力向上／コースの実績】**

回数	実施期間	参加人数
第1回研修	2013/10/15～2013/11/02	8名
第2回研修	2014/10/16～2014/11/08	10名
第3回研修	2015/08/13～2015/09/04	9名



水質検査演習中の研修員（2014年度研修コース）



JICA九州で講義を受ける研修員（2015年度研修コース）

## 2. 末田 元 コースリーダーからメッセージ



平成 25 年度から 3 か年計画で始まった「コソボ下水道対策能力向上」が無事終了しました。この研修には同じ人が複数回参加することが予定されているということが第一回目研修の後に分かりました。

このため、研修カリキュラム作成に当たっては、研修終了後のコソボ側の要望をできるだけ取り入れ、毎回内容を新しくしました。各回の研修終了後には、研修員は自国の首都プリシュティナに集まり研修成果の発表を兼ねワークショップを開いています。

一、二回目研修のワークショップは研修参加者のヴェビさんが報告してくれました。三回目はヴェビさんの研修参加がなかったため、報告が途絶えるのではないかと心配していましたが、三回目もヴェビさんから報告をいただきました。

内容を見ますと、一回目、二回目だけ参加の研修員の発表も見られます。3 回の研修を総括するという意味でしょう、過去の研修参加者も集まってワークショップを開いてくれた様です。研修成果を見届けることが難しいこのような研修事業の中にあって、このように研修成果を国の下水道関係者に知ってもらうためのワークショップの開催は非常に重要なことだと思っています。

ヴェビさんからの報告にもあるように、コソボ国は EU 加盟を目指し水環境改善、保全に努力をしているようです。このような研修成果の発表がコソボ国の水環境の改善につながることを願っています。

～ ヴェビさん、三回の報告、誠にありがとうございました！ ～

## 3. ヴェビさんからの便り



末田さんへ  
お元気ですか？ いかがお過ごしでしょうか。  
末田さんご家族の皆様が無事であることを願います。  
ここコソボでは、比較的穏やかだった冬が終わり、かなり温かく晴れています。  
私は仕事が終わった後、娘と一緒に保育園からアパートまで歩いて帰ります。

先月、プリシュチナの JICA 事務所の支援をいただき、水・下水処理に関して日本で得た経験を伝えるため、3 度目のセミナーを行いました。私は、このセミナー実施について末田さんと共有すべきと考え、同時に私たち全員からの日本に対する感謝の証しとして受け止めて欲しいと思います。メールにセミナーの概要報告を添付します。その日の雰囲気を感じて頂ければ幸いです。末田さんが、楽しく、かつ最高の毎日を過ごされることを願っております。

ヴェビ・ドウラク  
(Vehbi Duraku)

# 下水道セミナー (日本で得た経験)

2016年2月

報告者：ヴェビ・ドゥラク

## 1 序文

日本政府とコソボ政府との協力により、下水処理能力向上のため、日本の北九州市で3回の研修が開催されました。この研修は、コソボ国地域水公社の下水分野での人材強化のため、経済開発省からの要請で行われました。

JICAは、本件に関する協力が重要であると判断し、コソボからの派遣者に対し、技術面を中心とした能力向上の研修を準備してくれました。コソボはEU加盟を進めていて、コソボの各機関は全ての分野においてEU規格を満たすため多くの努力をしています。

下水処理の機能、保全、高度な技術に関する日本での経験は、コソボのこの分野で非常に役立つと思います。JICAが、下水処理の技術面における能力向上を支援することで、コソボに貢献しようと考えたのは、このためです。環境保護は、科学者だけの問題ではなく、今は世界の多くの国で政治的な観点からも深刻な議論の一つになっています。コソボも環境保護のために適切な注意を払おうと努力しています。コソボの下水分野の実際の状況は望ましいレベルではないので、仕事も山積して投資も必要です。

下水は最も大きい環境汚染源の1つですので、川に放流する前に適切に扱われることが必要です。このため、コソボは外国機関の資金協力を得て、下水処理を実施しようとしています。これまで、上下水道分野ではコソボ政府だけでなく、たくさんの投資をしてくださったいろいろな資金協力者たちからの相当な貢献がありました。そして、彼らはこの分野での更なる発展のためにコソボを助け続けてくれています。

様々な分野でコソボを助け、助け続けている最も大切な資金協力者の一つは日本です。日本は下水処理分野においてもコソボの専門スタッフの訓練に大きく貢献してくれました。

## 2 セミナーの組織とプレゼンテーション

コソボは、下水処理場に関する豊富な経験と先進技術を持つ日本で、3年間続けて専門スタッフを訓練してもらうことができました。日本で得た知識を伝えるために、JICAの助けて日本での研修に参加したコソボの専門スタッフグループは2月16日に【下水道処理－日本からの経験】のセミナーを計画しました。セミナーは、プリスチナのシリウスホテルで13時から16時まで開催されました。

セミナーでプレゼンテーションを行った発表者のリストは下表の通りです。

	発表者	所属機関	発表題名
1	Shahe Kukaj-Krasniqi	経済開発省	コソボと日本の下水道
2	Dafina Deva	Radoniqi 水公社	日本における下水管渠の維持管理
3	Beqir Vojvoda	スケンデライ処理場	Skenderaj 下水処理場での Rezallë 村の下水処理の検討

4	Skender Ramadani	Hidromorava 水公社	Zhegër, Lladov, Nasal, Partesh, Budrig, Pisjan E Partesh, Velekincë 村への下水処理場導入提案—日本からの経験
5	Vehbi Duraku	上下水道規制事務所	流域ごとの均一な下水料金の設定
6	Lumni Sallahu	Hidroregjioni-Jugor 水公社	地方における小規模下水処理場導入の可能性
7	Lulzim Paqarizi	Hidroregjioni-Jugor 水公社	日本で学んだ PTF 方式の下水処理
8	Valdet Syla	Bifurkacioni 水公社	Jezerc 村への下水処理場導入提案—日本からの経験
9	Agron Dreshaj	Hidrodrini 水公社	メンテナンス・チームの改革と雨水排水マンホールの重要性
10	Illir Abdullahu	Prishtina 水公社	下水放流ポイントの台帳

### 3 セミナーに参加した主なメンバー

コソボのJICA事務所と協調して、日本で研修を受けた専門家グループは、日本で得た知識はコソボの関係者たちに伝えなければならないと考えました。そこで、なんらかの下水分野に関連があるすべての機関と組織を招待するのにかなりの努力をしました。

このセミナーに参加された機関名は以下の通りです。

1. 経済開発省
2. 環境空間計画省
3. 上下水道規制事務所
4. 内閣水道議会
5. “Prishtina”水公社
6. “Hidroregjioni-Jugor” 水公社
7. “Hidrodrini” 水公社
8. “Mitrovica” 水公社
9. “Radoniqi” 水公社
10. “Bifurkacioni” 水公社
11. “Hidromorava” 水公社
12. コソボ上下水道協会
13. 青年水道専門協会

このセミナーに参加した機関の関心度は全般的にかなり高く、60人が参加しました。

### 4 謝辞

コソボ共和国は、このレポートをもって、持続可能な施設の建設途上にあるコソボに支援し、特に下水処理能力向上を助けてくれた日本に、変わらない深い感謝を表したいと思います。コソボ政府は先進国の日本から学ぶことがたくさんあると思うので、日本とコソボのこの良い協力が今後も続くことを願います。

5 ワークショップの会場風景



セミナーの参加者たちは日本での研修で得た経験に関して、活発に討論することができました。また、コソボの上下水道の課題に関する様々な議論を交わしました。



クリックしてレポートを  
ご一読下さい。(英語版)